

令和5年度第2回小牧市少年センター運営協議会 議事要旨

- 【日 時】 令和6年2月15日（木） 午前10時～午前11時
【会 場】 小牧市役所 本庁舎3階301会議室
【出席委員】 安藤会長、田口委員、加藤委員（青山代理）、堀田委員、船橋委員、
宮本委員
【欠席委員】 丹羽委員、鈴木委員、松浦委員、木村委員
【事務局】 川尻こども未来部部長、伊藤こども未来部次長、小川課長、植松少年センター所長、杉浦副所長、大澤指導員、千種指導員、若林係長、上條
【ガザパー】 山田主幹（市民安全課）、高堀指導主事（学校教育課）
【傍聴者】 なし
【内 容】

1 あいさつ（部長）

皆様には、日ごろから青少年の健全育成のため格別のご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今般はスマホ利用の低年齢化に伴い、ネット上のいじめや子どもが犯罪に巻き込まれる危険性が、社会的に大きな問題となっています。

このような青少年の抱える問題は、社会の変化とともに日々変化し、複雑化しておりますが、小牧市少年センターでは、少年の非行・被害を防止し、健全な育成を図るために、街頭パトロールや相談事業などを中心に活動しています。

今後も、個々の抱える複雑な問題の支援から、広く市民への意識啓発など、様々な課題の解決のために、他機関とも連携を密にしながら柔軟に対応し、青少年育成の推進に努めていきたいと思っております。

本日は、今年度の小牧市少年センターの事業経過報告及び来年度の運営計画案を議題としておりますので、皆様からの忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

今後とも青少年の健全育成、非行・被害防止のため、お力添えをいただきますようお願いを申し上げます、簡単ではございますがあいさつとさせていただきます。

あいさつ（安藤会長）

委員の皆様には、定刻までにお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

また日頃は少年センターの諸事業にお力添えをいただいておりますことに、この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

1月7日の成人式に出席させていただきました。成人式には長く出席させていただいており、コロナ禍が空けてどのような成人式になるかと見ておりました。

今回参加された方々は恐らく高校時代、コロナ禍でかなり制限のある生活を余儀なくされた世代かと思っております。

今回、私が見た成人式の中で一番参加意識が高く、市長の挨拶に対しても正対して聞く、話す相手の方に体を向け、話が終わるともどす。そういった動きを参加者全体が整然とできていたのを見て、立派な大人になりつつあるなという印象を持ちました。

これから、小牧市を背負う、国を背負っていく若者たちがこうやって成長してくれることを願っていききたいと思いつつ参加させていただきました。

これも皆様のお力添えのおかげとっております。
今日は熱心な審議をよろしく願いいたします。

2 議題

- (1) 令和5年度事業経過について
 - (2) 令和5年度補導活動状況について
 - (3) 令和5年度相談受理状況について
 - (4) 令和5年度青少年健全育成モニター活動状況について
- 資料に基づき少年センターより説明

【質疑応答】

(堀田委員)

相談受理状況についてですが、相談というのは同じ人から何度も相談が来ることはありますか。その場合は件数のカウントはどのようになっていますか。

(事務局)

カウンセリングを2週間に1回行っており、来所の件数はカウンセリングも含めた数となっています。同じ方から相談があれば、その都度カウントしています。

(青山代理)

加藤の代理で来ております、小牧工科高校の青山と申します。

補導活動状況について、令和4年度が304件、令和5年度が163件となっていて、数がかなり減っていますが、これは何か基準のようなものがあるのでしょうか。

(事務局)

補導員の方たちが時間帯を変えて、子どもたちが活動しやすい夕方に見回りをしたりしています。

夕方6時、7時に公園で遊んでいる子がいたら、早く帰るよう促したりしていますが、全体的に外に出てくる子が少なくなっているというのがあります。

(青山代理)

通報状況のところ、小牧中の先生が活動する回数が多いので、個人的には毎回出る先生が大変だと感じたので。

(事務局)

これは活動回数の差ではなく、各補導員の情報収集能力の差になります。

小牧中の補導員、今日欠席されている木村委員が、よく図書館に行かれたり、学校の先生から話を聞いて、情報を仕入れてこちらに情報を提供してくださるので、その差が出ている状況です。

(船橋委員)

補導内容について、中学生のその他が26件とありますが、これはどういった内容なのでしょうか。

(事務局)

子どものたまり場になっているようなところや、公園などで、6時7時になっても遊んでいる子がいたら、早く帰るよう声掛けをしているので、補導といっても喫煙をしたり、問題行動をしているといったものではありません。

ただ、声掛けをした時に遊んでいた人数が多いと、その数だけ膨らんでしまう状況です。

(5) 令和6年度小牧市少年センター運営計画(案)について

○資料に基づき少年センターより説明

(安藤委員長)

いじめの認知件数や暴力行為の発生件数の増加の一因として、学校等による見取りの精緻化とあります。難しい言葉ですが、これはどういった意味でしょうか。

(事務局)

資料の文面は文科省が使っている言葉になりますが、簡単に言うと細かく正確に見ているということです。

例えばいじめの件数を計上する際、普通に考えるといじめは少ない方が良いと思いますが、子どもたちがそういうトラブルにあった際には、まずはいじめとして細かく取り上げて、一つ一つ丁寧に見て解決していくという意味です。

一概にいじめや暴力行為が増えていることだけが悪いとするのではなく、まずは認知をして、それに対応しているということで、恐らく精緻化という言葉を使っているのではないかと思います。

(安藤会長)

特に変更になった活動はなく、例年どおりということでよかったですでしょうか。

(事務局)

変更は特にありません。

○原案のとおり承認

4 懇談

(船橋委員)

保護司の代表としてきておりますので、保護観察の統計についてです。

最近の件数でいいますと、小牧市内で保護観察を扱っている件数は40件あります。そのうち少年に関するものが29件。更生施設に入っているのが28件。少年院が1件となっています。

(宮本委員)

小学校で心の相談員をやっているが、相談を聞いていると不登校の相談が多くなっていると感じます。

実際学校でも不登校の子たちが増えていて、学校によってはフリースクールのような、学校に来られない子たちの居場所を校内に作っているところもあり、心の相

談員も協力しているので、少しずつ相談員の負担も増えてきていると感じます。

年々、不登校の子が増えていくと思うので、それに対する対策を考えないといけないと思っています。

不登校の子の親御さんは授業、学習の遅れを心配する方が多い。親御さんからは、授業を自宅で受けられるようにできないかとよく言われます。

実際、今はタブレットが支給されていますが、それを使って授業を見るということとはできないので、そういったこともこの先対策として考えていかなければいけないのではと思います。

(高堀指導主事)

不登校は全国的に増えてきており、全国平均より高い割合というのが小牧市の小中学校の状況としてあります。

相談員の方が集まる会議でも同じような話があがります。

これからの不登校対策として、今までは学校復帰や教室に行くということが大前提であったと思いますが、その考え方も変わってきています。

学校復帰が全てではないということで、フリースクールや教育支援センターなどの教室以外の居場所を校内に作ることができないか、また、学校外でも適応指導教室という居場所を作っているが、その子その子に合わせた居場所をどうやって作っていくかというのが大きな課題になっています。

現在 ICT の活用も進めているところではありますが、状況によっては家庭にしながら学ぶことができないか、どのような取り組みができるのか、市としても問題意識をもって取り組んでいきたいと考えています。

(事務局)

文科省が、不登校が30万人を超えることを受けて、令和5年の3月に不登校の増加を受けて、COCOLOプランというものを作っています。

内容は大きく3つあって、一つ目は子どもたちが学びたいと思ったときに学べる環境を整える。二つ目は小さなSOSを見逃さないようにして、学校全体で支援していく。最後に学校の風土改革が三つの大きな柱として書かれています。

これを今後具現化するために、県あるいは市から学校を通して行っていくことになると思います。

今後の不登校対策は、学校復帰を前提としない取り組みになっていくのではないかと、そうすると学校、学校教育課の取り組みだけでは難しいだろうと思います。

また、児童福祉の観点から見るとアウトリーチと言って、本来問題を抱えているけれど積極的に相談しようとしないう子どもたちへも、どのように改革していくのか。

これからは、そういったところにも足を踏み入れる、手を差し伸べていく。これまでは難しいと言って避けていたところかもしれないが、少年センターとしても学校教育課等々の指導を受けながら、連携をしてやれるところを順番にやっていきたいと考えています。

市内のどの児童館も不登校対策を大きな柱としてやっていこう、子どもの意見を取り入れて児童館運営をしていこうと考えています。

どこか一つがやるのではなく、子どもを取り巻く全体が一生懸命やっていかないとこの数はどうにもならないというのが現状にあると思うので、少年センターもそういった考えをもって活動していきたいと思っています。

(青山代理)

本校の話をする、出口戦略の多くが企業さんということで、8割ぐらいが就職です。今まではコロナ禍ということで、学校を休むことが多かったように思います。体調が悪いとコロナかどうか様子を見させてほしい、風邪が悪化するといけないので休みますというのが多かったです。

私が感じていることにはなりますが、コロナ禍が空けて日常が戻りつつあるところで、今後企業が今までの様に休まない子を採用したいと言ってきた場合、休むことに対してハードルが下がっている親子とハードルを上げてくる企業とのギャップをどう埋めていったらいいかという悩みがあります。保護者にも伝えたりはしていますが、相変わらず変わらない面もあります。

不登校に関しても、中学から高校に上がってくるときに欠席が多いなという子を見るのがあって、それでも高校に入って頑張ってくれる子もいれば、どうしても頑張りきれずにお休みが多い子もいます。

そういう子たちにどのような進路をとるのが、学校だけではどうしようもないところがあります。社会の成り立ちとして、企業はそんなに休む子を採用しては困るというのがどうしてもあるので、社会とのつなぎをどうするかというのが難しく感じています。

(田口委員)

小牧西中学校の田口と申します。

先ほどから話題に上がっている不登校というのが大きな問題で、生徒指導関係のいろいろな会合で話題になっていて、当校にも少なからず不登校の子がいます。

個人的には、今年はある程度コロナ禍以前のように大規模な行事が各学校で開かれていることも要因の一つではないかと思っています。

運動会や文化祭、合唱祭などをこれまでは規模を縮小して行ってきたが、今年からは、ほぼ以前の規模で行っています。多くの子どもが関わり合って目標に向かって頑張っていくので、そういうことに慣れていない、不応を起している子たちもいるのではないかと考えています。

今、価値観の多様性ということで、学校復帰することだけが前提ではないということはもちろんありますが、教室が無理であれば保健室登校であったり相談室に行ってみたりなど、ハードルを低くしながら各学校が試行錯誤しながら取り組んでいる状況かと思います。

不登校気味の生徒、保護者と連絡が取ればいいが、中には親御さんとも生徒とも連絡が取れない学校もあると聞いているので、そういったときには関係機関と相談しながら対応していかなければならないというのを喫緊の課題として認識しています。

5 連絡依頼事項

令和6年度のスケジュールについて連絡